

令和6年度 愛媛県立西条高等学校（全日制）第125回 卒業式式辞

春の日差しが、まるで卒業生の皆さん一人ひとりを暖かく包んでくれているかのように感じられる今日の良き日に、愛媛県議会議員明比昭治様、PTA会長森徹様、卒業後50年を迎えられました同窓生の皆様をはじめ、多くの御来賓の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立西条高等学校第125回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより在校生や教職員にとっても大きな喜びでございます。巣立ちゆく卒業生の門出に花を添えていただき、誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました266名の皆さん、卒業おめでとうでございます。心から拍手を送り、お祝い申し上げます。またご家族の皆様におかれましては、今日の日まで陰になり日向になって大切に育ててこられたお子様のご卒業、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんとは1年間のお付き合いでしたが、皆さんと出会えたことをとても嬉しく思っています。皆さんが何事にも一生懸命取り組み、学校を盛り上げようとする姿を私はずっと見てきました。皆さんの周りには、今もそうですが、どんな時でも心が通い合い、固い信頼関係で結ばれたかけがえのない仲間がいました。皆さんはそんな仲間と共に学び合い、高め合い、支え合いながら大きく成長してくれたのです。皆さんが仲間とともに乗り越えてきたたくさんの苦労や試練は、皆さんがこれからの人生を力強く歩んでいくための素晴らしい力を与えてくれたはずだと、私は確信しています。

卒業式にあたり、今日は皆さんに千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長の古田貴之教授のことを話したいと思います。今から14年前、皆さんが4歳の頃ですからリアルタイムでの記憶はないかもしれませんが、あの東日本大震災が起きました。地震による巨大な津波で福島第一原子力発電所は停止。大規模な放射能汚染事故が発生しました。すぐに建屋内部調査をする必要があったのですが、生身の人間は被曝してしまうため近寄れないという状況の中、ある災害対応ロボットが原子炉建屋内に入り内部調査を行いました。その災害対応ロボットを開発したのが、今日紹介する古田さんなのです。古田さんは中学の時に突然難病に襲われ、医師から「下半身は麻痺する、余命はもって8年、万が一助かっても一生車椅子生活になるだろう。」と言われました。その後、実際に車椅子生活になった古田さんは、「これからは人の力を借りないと生きていけないのか。」と落ち込む日々を送っていたといいます。ところが、ある日、「このまま嘆いていても仕方がない。誰にも頼らずに自由に行動でき、誰もが乗ってみたいくなるようなかっこよくて役に立つ車椅子ロボットを開発しよう。」と思い立ったそうなのです。そして、「余命8年の自分には時間がない。だからいますぐ始めよう。不自由な人が不自由でなくなるロボットを作ったら、たくさんの人が喜ぶに違いない。」と心に決めたというのです。自分の人生を悲観していた中学生が考え方を前向きに改め、人のために行動しようとする姿に、私は尊ささえ感じました。その後、古田さんは奇跡的に回復し、これまでに世界初の人工知能搭載サッカーロボットやバック転するロボットなどを次々開発し、世界の第一線で活躍する押しも押されぬロボットクリエイターになったのです。

古田さんが誰も考えたことのない世界初のロボットを作り上げたように、皆さんもこの3年間、SSHの探究活動で「正解のない問い」に挑んできました。正解のある問題の正解を探し出せば評価される時代は、もう終わりつつあります。そんな中、皆さんがSSHの活動の中で、ちょっとしたことに問題意識や疑問を持ち、現状を把握し、自分なりの視点・発想を持って課題解決のために努力してきたプロセスは本当に得難い貴重な経験だったと思うのです。

私は、西条高校を卒業する皆さんには、古田さんのように「自分の心がワクワクすることを探し、それに果敢にチャレンジして行ってほしい」と思っています。皆さんが生きる現代は、校長である私が生きてきた時代に比べ、予測不可能な時代だといえることができます。そんな不確かな時代に必要になるのは、「正解のない問い」について考え、解決方法を探すという皆さんがSSHで身に付けた力に他なりません。どんな時も、できるかできないかではなく、どうすればできるかを考え、歩んで行ってください。チャレンジする人の人生に失敗などありません。チャレンジして初めて得られるものが数多くあるのです。たとえ、他人が誉めてくれなくても、その日一日を振り返り、「今日はこれができた。あれも頑張れた。」と自分を誉めてあげてください。他人と比較するのではなく、「自分は自分」と思えるようになった時、皆さんはきっと「自分なりの正解」を見つけているはずなのです。

本日の卒業式は、新しい人生の始まりです。今後、重圧に押しつぶされそうになる時もあるかもしれませんが、その時は皆さんの周りの家族や友人、また私を含めた西条高校の恩師もきっと力になってくれるはずです。西条高校との絆も、時に思い出して頼りにしてもらえると嬉しく思います

最後になりましたが、卒業生の皆さん、西条高校に入学してくれてありがとうございます。そして、校長の私に、たくさんの喜びと元気を与えてくれてありがとうございました。皆さんがワクワクすることを見つけ、その新しい世界で、笑顔で楽しく活躍されることをお祈りして、式辞と致します。

令和7年3月1日

愛媛県立西条高等学校

校長 山下和宏